

安全・安心なまちづくりのために

地域の防犯・防災活動



犯罪の抑止力になったり、大規模災害が発生した時、迅速な救助に大きな役割を果たしたりするとして、今、地域の力の大切さが改めて見直されているんだ。安全・安心なまちづくりのために、地域が一体となって防犯・防災活動に取り組んでいる事例を紹介するよ。

事例 11

防犯活動(岸町地域自主防犯ステーション【愛称:烏頭坂ステーション】運営協議会)



常駐活動の様子

■設立

平成 23年度で開設から6年目を迎える「烏頭坂ステーション」。埼玉県警察の再編計画に基づき廃止された岸町交番を、地域の防犯パトロール等の活動拠点として再活用しようと、市が警察の協力を得て整備したものです。

■活動内容

自分たちのまちは自分たちで守るため、地域住民が中心となり、主に次のような活動を行っています。

①常駐活動

同ステーションを拠点とした、防犯のための常駐活動です。岸町1～3丁目自治会が1週間交替で、毎日、4人以上で地域内パトロールや登下校時の児童の見守りなどを行っています。常駐活動には、岸町に住む全世帯が参加。「3,000世帯余り、全員でやれば、当番は2年に1回。地域住民の皆さんに参加してもらうためには、無理なくやるのが大切です」と

岸町地域自主防犯
ステーション運営協議会

●代表者
会長: 栗原 博司

●連絡先
Tel: 247-7701
Fax: 247-7703

話す代表の栗原会長。また、毎日住民が顔を合わせる同ステーションは、コミュニティづくりの場としても重要な役割を果たしています。

②青色回転灯パトロール車(青パト)による巡回防犯広報活動

岸町1～3丁目自治会の輪番制で、活動は毎週1回、約2時間。年末の約1週間は、歳末特別警戒として、3自治会が合同で連日、自転車と徒歩によるパトロールを行っています。

③高齢者の振り込め詐欺・交通事故撲滅運動

年1回、2日間かけて、地域の小学5・6年生が呼びかけ人となり、70才以上の高齢者宅を訪問。犯罪や交通事故にあわないよう、声かけを行っています(写真右)。



栗原会長は、「地域の人たちの目が光っていることを不審者等に知らせ、寄り付かせないようにするのが一番の防犯対策。住民の間には、活動に対する認識と理解が深まりつつあります」と話します。また「活動を継続するためには、『“できることを” “できるときに” “できる範囲で” 実践』という意識が大切です。今後も市や川越警察署と協力し、自主防犯活動に取り組んでいきたいです」。

“誰もが安全で安心して暮らせるまちづくり”を目指し、地域住民が一丸となった取り組みが今日も行われています。

烏頭坂ステーションには、新河岸交番・川越警察署への直通電話が設置されているんだ。警察官も度々立ち寄りたりするよ。



事例 12

ぼうさいかつどう みなみふるやち くしゃかいふくしきょうぎかい 防災活動(南古谷地区社会福祉協議会)

■南古谷地区の概要

人口 23,513 人、世帯数 9,033 世帯(平成 24 年 1 月 1 日現在)の南古谷地区。人口に対する 65 才以上の割合は市の平均より低く、また児童数も増加傾向にある、比較的若い世代が多い地域です。

■活動内容

地域の防災力向上のため、主に次のような活動を行っています。

①子ども防災キャンプ

これは平成 16 年度から始まった、毎年夏休みに学校の体育館に 1 泊し、児童が避難所体験をするというもの。「もし災害が発生して避難した時、鍵の保管場所や防災倉庫の位置などがわからないということがないように、会場はあえて地区内 5 つの小中学校で持ち回ります」と代表の櫻井さん。

同キャンプには、毎回 100 人ほどの児童が参加。炊き出し、防災関係のビデオ鑑賞、応急手当



炊き出し(写真左上)や遊びなどで、リーダーの役割を果たすのは中学生。“だるまさんが転んだ”を楽しむ子どもたち(写真下)。避難時、小さな子どもたちを不安にさせない効果も期待できます。

訓練、救出訓練などを通して、防災について楽しく学ぶとともに、助け合いの気持ちを養います。

②総合防災訓練



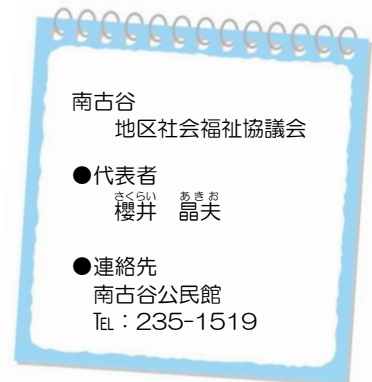
全世帯を対象に、毎年 12 月の第 2 日曜日、南古谷小学校で実施しています。毎回 800 人ほどが参加し、消防点検、ポンプ操法、初期消火、模擬消火、応急救護、救出体験、煙中避難体験訓練、AED 操作体験などが行われます。

③要援護者支援活動

災害発生時、地区社協、自治会や自主防災会等の団体が連携し、地域が一体となって要援護者を支援するため、自治会長や民生委員の協力のもと、「災害緊急情報カード」や「災害時要援護者マップ」を作成。要援護者の情報把握に努めています。

「いつ起こるか分からない大水や大地震。災害を起こす自然の力を押さえることはできませんが、皆の知恵と助け合いで、被害を少なくすることはできます」と櫻井さん。

“単純な訓練の繰り返しと日頃からの備えが、いざという時、行動に結び付く”という意識が、地域全体に広がっています。



“福祉”について知ってみよう ⑥

◆地区社会福祉協議会って、何？

「地区社協」と略称で呼ばれることも多い地区社会福祉協議会。だいたい小学校区や中学校区の単位で組織されている、地域住民が主体の任意団体だよ。川越市内には、現在 22 の地区社協が設置されているんだ。

地区社協のメンバーは、自治会や民生委員・児童委員協議会を中心に、育成会、学校・PTA、老人クラブ、社会福祉施設など。さまざまな団体や組織が協力しながら、会食会・配食サービス、見守り活動、ふれあいサロン活動、子育て支援活動などを行っているよ。住民自身による地域づくりが、より具体的に進められているんだ。

